
おこきの群

おこき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おこきの群

【Nコード】

N5387M

【作者名】

おこき

【あらすじ】

自由に何が言いたいかわからない200文字小説を載せていきたいと思います。

※作者なりに納得できたものをあげているつもりなのです。お許しを。

のほほんど更新していきますので、生温かい目で見逃してやって下さい。

世話好きの一押し

僕は世話好きだ。

いつも友達の鞆を両手両肩にぶら下げて下校してあげている。
母さんが作ってくれたお弁当も全部あげている。

「オイ、鞆持てよ」今日もマサ君達から下校の誘いが来た。

女子を連れて有頂天のマサ君が道路に飛び出て、ひゅーひゅーと
喉を鳴らしている。

次の日からマサ君は学校に来なくなった。

マサ君の自宅に行って、別れを告げる。

「プッ……なんで自殺なんでしたの？」

危ない。こいつのアホ面で、笑いそうになった。

噂の彼

「ごめん、待ったよね？」

父親が峠に在るとの噂が流れている彼。

最近会わなかったせいかもしれない、たぐましくなつた気がする。

家庭事情もあるが、義理人情に厚い彼は生徒だけでなく先生にも注目されている。

「ううん、今来たところ」

本当に今来たところだ。

「運転、上手いんだね」

「そう？ 昔から結構乗ってたからなあ」

私達の高校に到着してナンバープレートの4649を見送る。父親が在る峠に行くのだろう。明日は兄が峠に在るらしい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5387m/>

おこきの群

2010年10月10日12時13分発行